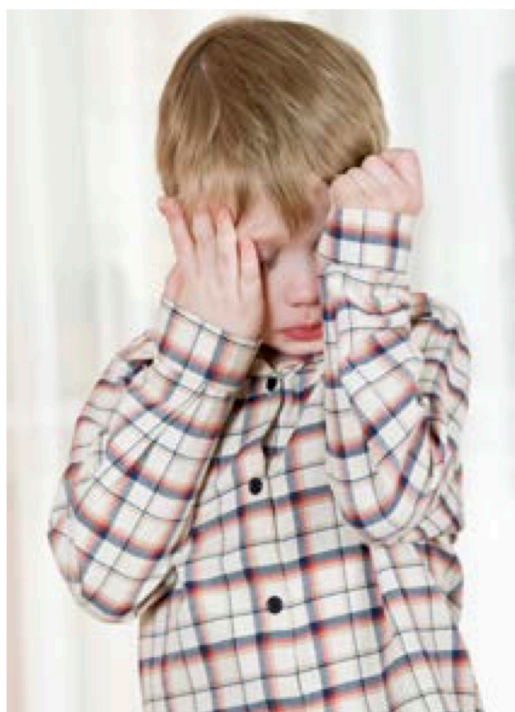


学校で行われる性的虐待予防プログラムは、 子どもの防御行動を強化し、性的虐待に関する知識を増加させる



過去ないし現在における子どもへの性的虐待の発覚は、学校での教育プログラムの参加者がいることで増加する

このレビューのねらいは何か？

このキャンベル系統的レビューは、子どもへの性的虐待を予防するための学校における教育プログラムの効果を検証している。このレビューでは、アメリカ合衆国、カナダ、中国、ドイツ、台湾およびトルコで実施された24試験の結果が要約されている。標準的な質のエビデンスを評価した6のメタアナリシスが含まれている。この研究は、前回のレビューの最新版であり、2014年9月までの公刊物をカバーしている。

性的虐待を予防するための学校における教育プログラムは、（短期的には）初等教育児童の性的虐待に関する知識と、この種の虐待から自己を守る行動を増加させる。

このレビューは何を検証しているのか？

子どもに対する性的虐待は、その規模と結果の両方の点で、重要かつグローバルな問題である。学校での教育プログラムの実施が、もっとも広く用いられる一次予防の方策であった。1980年代以降、こうしたプログラムが学校で教示されてきたが、その有効性は継続的な検証を必要とする。

このレビューで評価するのは以下の点である。子どもの防御的な行動および性的虐待の予防に関する知識の増加に対して、プログラムが有効かどうか、またそうした行動やスキルが時を経て持続するかどうか、そしてプログラムへの参加の結果、性的虐待が発覚するのか、何らかの害が発生するのか、あるいはその両方か。

このレビューにはそのような研究が含まれるのか？

対照研究、つまり無作為化比較試験（RCTs）および疑似RCTsのみが含まれた。これら研究では、学校で行われる教育プログラムと、一般的な学校のカリキュラムまたはまったくの介入なしとが比較された。

このレビューにおける主な結果はどのようなものか？学校で行われる教育プログラムは、子どもの防御行動と性的虐待に関する知識を増加させるのか？

学校において行われる子どもの性的虐待予防のための教育プログラムは、性的虐待予防に関する子どもの知識と防御的な行動の向上という点で、他のプログラムまたは何もしないことに比べて、より効果的である。子どもは、プログラムへの参加によって得た知識を維持するが、6カ月以上これが保たれるのかを検証した研究はなかった。防御行動が時とともに維持されるのかを検証した研究もなかった。



このレビューはどのようにして更新されるのか？

このレビューの著者は、2014年9月までに公開された研究を検索した。このキャンベル系統的レビューは、2015年5月4日に公開された。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。われわれは、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスの質を要約し、評価している。われわれの目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

このサマリーについて

このサマリーは、the Campbell Systematic Review 2015:10 'School-based Education Programmes for the Prevention of Child Sexual Abuse: A Systematic Review' by Kerryann Walsh, Karen Zwi, Susan Woolfenden, and Aron Shlonsky (DOI 10.4073/csr.2015.10)に基づき、Bianca Albers (Centre for Evidence and Implementation)によって立案された。Tanya Kristiansen (Campbell Collaboration)が編集とレイアウトを行った。このサマリーの制作にあたりthe American Institutes for Researchが資金援助を快諾してくれた。



学校における教育プログラムへの参加によって、過去ないし現在生じている子どもへの性的虐待の発覚が増加する。しかしながら、この知見を支持するエビデンスは弱く、注意深く解釈されるべきである。

子どもへの性的虐待予防のための教育プログラムに参加することによって、何らかの有害な効果は生じるのか？

学校において行われる教育プログラムは、子どもの参加者に対して恐怖や不安感を引き起こすことはなさそうである。両親の不安感または恐怖は、いずれの研究においても認められなかった。

エビデンスの質はどのようなものか？

このレビューに含まれる研究のエビデンスの質は中程度である。これは、いくつかの研究において検出されたバイアスの危険性、不正確な報告データ、そしてクラスター無作為化デザインを用いた研究については、不適切なデータ分析手法に起因している。

このレビューの知見は何を意味するのか？

子どもの性的虐待予防のための学校における教育プログラムは、子どもの性的虐待に関する知識と、初等教育児童の防御行動を向上させるのに妥当なアプローチである。レビューでは、こうしたプログラムが実際に子どもの性的虐待を予防するかどうかは評価されなかった。

既にあるプログラム、その内容、手法および提供に関して、またそのウェブベースまたはオンラインでのプログラムの使用も加えた、より厳格な評価を行うためのさらなる研究が必要とされている。こうした研究によって、プログラムへの参加と、子どもの性的虐待に対する実際の予防との関係も検証されなければならない。